

# 3. 建設生産システムの生産性革命

- 中長期的な担い手不足がネックとならないよう、建設生産プロセス全てを対象として、ICT・新技術を活用する「i-Construction」を推進し、インフラ整備・メンテナンスの生産性を向上
- また、インフラメンテナンス国民会議の創設等を通じて、メンテナンス産業を育成・活性化

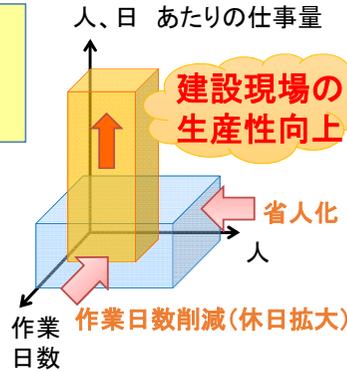
## i-Constructionの推進

建設現場の生産性を、2025年度までに2割向上するため、全ての建設生産プロセスでICT等を活用

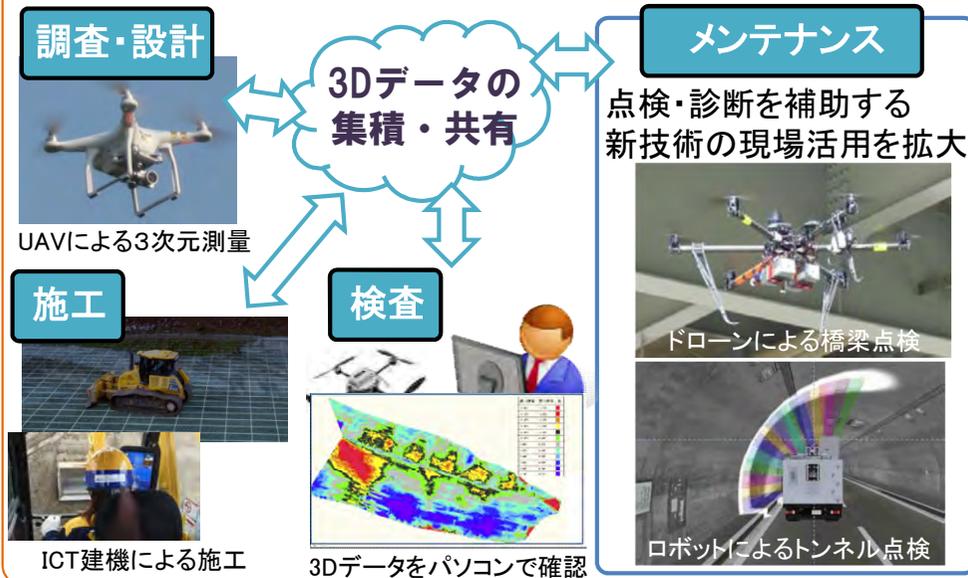
- 2016年度から大規模な直轄工事（盛土、切土工事）でICTを原則適用
- 今後は、3年以内に、橋梁・トンネル・ダムや維持管理の工事にICTの活用を拡大

〔具体的施策〕

- ・3Dモデルを導入・活用のための基準類の整備
- ・3Dデータを広く官民で活用するためのプラットフォームの構築



## 建設生産プロセスにおけるICTの活用拡大(イメージ)

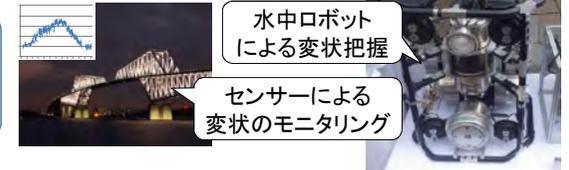


## メンテナンス産業の育成・活性化 (インフラメンテナンス国民会議等)

- インフラメンテナンス国民会議の創設(11/28)等により、メンテナンスに社会全体で取り組む体制を確立。
- 建設分野に限らず、ICT、材料等の異業種の連携や技術の融合を加速し、最先端の技術の活用を促すことで新たな需要を取り込みつつ、メンテナンス産業を育成・活性化。



〔国民会議によるコラボイメージ〕



〔省人化に資する最先端技術導入のイメージ〕

## 新技術の導入

